

2018 年度

アメリカ合衆国留学報告書

留学先

セントラルミズーリ州立大学

留学期間

8月21日～12月6日

新潟国際情報大学

国際文化学科

学籍番号 21017112

星山聖夜

目次

留学・研修先及び期間

1. 留学・研修先概要

2. 留学・研修の目的

3. 留学・研修内容のスケジュールと履修コース・研修の詳細

4. 当初の目的および目標へと達成度に対する自己評価・派遣によって得られた事

5. 反省・課題

6. 謝辞

7. 付録

留学・研修先及び期間

留学・研修先： セントラルミズーリ州立大学

留学・研修期間： 8月21日～12月6日

1. 留学・研修先概要

(1) 留学先における大学について

1871年に創立されたセントラルミズーリ州立大学はアメリカ合衆国の中央であるミズーリ州、ウォーレンスバーグに位置し、人口は約15000人である。セントラルミズーリ州立大学は主にパイロットを目指す学生が多く、アメリカの中でも有数の航空基地に隣接している。学部は、ビジネス、社会学、人文科学、芸術、教育、語学、医療、環境、工業、情報と10つで豊富である。1年2学期制度が導入されており、学生は全校で約13000人とされている。中でも、セントラルミズーリ州立大学はスフスポーツに専念する学生がたくさんおり、大学内のアメリカンフットボールは学生たちを賑わせる。

(2) セントラルミズーリ州立大学における教育方針

セントラルミズーリ州立大学では教育方針として、この加速していく世界において生徒たちが大人になって世界へはばたいていけるように教養を広げ、深める知識と経験を提供するということを基本に置いている。目標達成という実感を鼓舞することやあらゆるニーズや人々との集団社会に関与した教育なども挙げられている。

2. 留学・研修の目的

今回のミズーリ州立大学での留学・研修の目的は、主に英語力の工場を目指したものである。近年日本の企業では、いかに英語に堪能か（書くこと・聞くこと・話すこと全ての点において）が問われてきているようだ。中でも、個々の英語力の指標となる資格、TOEICや英語検定、TOEFLなどの点数を基準にした企業も少なくはない。それに伴ってやはり有利になるのは留学である。実際に現地に住んでみることで、英語を話さざるを得ない環境に自分の身を置くことによって、日本で英語を学ぶよりも効率的に学習できる。次に、アメリカの文化と日本の文化の違いを体で体験するためである。そうすることによって、ただ英語を学ぶのではなく現地の文化、歴史にも触れ、より理解を深めることができる。アメリカ合衆国と日本との衣食住における文化の違いは著しいため、それらを体で体験することがで

きることは、英語への理解をより一層深める。

3. 留学・研修内容のスケジュールと履修コース・研修の詳細

授業内容は主に、英語の長文に対する速読力や、長文理解を鍛えるための授業リーディング、ある議題について英語で討論し英語の力を身に付けていくコミュニケーションスキルズ、英語の文法を基本的なことから学んでいく文法、そして米国の歴史や文化について触れている授業アメリカンカルチャーなどがある。授業の時間やサイクルは以下の通りである。

月曜日・・・	1限	リーディング	(9:00～10:50)
	2限	ライティング	(11:00～12:50)
	3限	アクセントリダクション	(14:00～14:50)
	4限	リーディング	(15:00～15:50)
火曜日・・・	1限	コミュニケーションスキルズ	(9:00～10:50)
	2限	文法	(11:00～12:50)
	3限	TOEIC	(14:00～14:50)
	4限	アメリカンカルチャー	(15:00～15:50)
水曜日・・・	1限	リーディング	(9:00～10:50)
	2限	ライティング	(11:00～12:50)
	3限	アクセントリダクション	(14:00～14:50)
	4限	ライティング	(15:00～15:50)
木曜日・・・	1限	コミュニケーションスキルズ	(9:00～10:50)
	2限	文法	(11:00～12:50)
	3限	TOEIC	(14:00～14:50)
	4限	アメリカンカルチャー	(15:00～15:50)
	(5限)	イングリッシュカフェ	16:00～17:00)

金曜日・・・ 1限 米国史 (10:00～10:50)
2限 日米関係 (11:00～11:50)

以上が主たる一週間のスケジュールである。なお、2限と3月曜日の間にはお昼休み(13:00～13:50)で50分の休憩が設けられている。そして授業開始から2週間程経過したあと、木曜日の5限にイングリッシュカフェと呼ばれる授業があり、そこでは1つの大きなテーブルの周りに色々な国の人々と英語で会話し合うという時間を設けられている。

そして11月21日から一週間、サンクスギビングと呼ばれる休日が設けられている。そこで人々は大型連休を活用して旅行へ出掛けたりする。

4. 当初の目的および目標へと達成度に対する自己評価・派遣によって得られた事

当初留学に行く前から前もって決めていた目標は、まず第一に自分の英語の力を少なからず上げること、そして次に現地の人々と交流を深めること、最後にアメリカ合衆国の歴史や文化について触れることであった。英語の力についてだが、向上したか否かを確実に示すものとしてTOEICが挙げられる。この目標は大いに達成された。理由として、留学に行く前に受験したTOEICの得点と留学の最終日に受験したTOEICの得点を比べて飛躍的に上がったからである。TOEICに関しては得点を100点以上上げることは努力なしでは成しえないことではあるが、それが達成されたことにより、留学後のこれからの英語の学習に自信がつく。次に現地の人々との交流を深めること。これについても達成することができた。授業の中での会話や討論はもちろんのこと、プライベートの時でもたくさん会話する機会があったため、交流を深められた。最後の目標、アメリカ合衆国の文化や歴史に触れること。これはプライベートの時に実感できた。そこでできた友人にアメリカの文化について聞くことや、授業の中で日米関係について扱った授業があったのでこの目標も達成することができた。

海外派遣によって得られたことは、現地の人々は皆優しいということだ。道が分からなければ丁寧に教えてくれ、頼んでやってほしいことを素直に尋ねればきちんと聞いてくれた。当初留学へ行く前の自分の考えとは違った。

5. 反省・課題

目標を達成することができたことなど良い点は色々あるが、もちろん反省せねばならない点もいくつかある。まず最初に、現地での授業と宿題についてである。宿題の量が多いとき、翌日までに間に合わず少し提出が遅れてしまうということがあった。授業が終わって寮に帰宅後したあとすぐに着手していくべきだった。課題も授業と同じく、分からないことがあればすぐに先生方に聞きに行くなどして対策するべきであった。そして次の反省点はお金の使い方である。円からドルに変わることでお金の使い方の基準も変わってくる。1ヶ月にどれくらい使えるか、ということを中心に計算して行動すれば、留学最終日周辺でお金のやりくりには困ることはなかった。

6. 謝辞

4ヶ月と短い間だったが、日々ネイティブではない我々に優しい英語で授業を進めてくれ、我々の授業に対する理解度を確認しながら授業を進めていってくださったおかげで安心して授業に参加でき、自分たちの英語の力の飛躍もみられた。ここまで進めてくれた先生方に感謝したい。

7. 付録

本来木曜日の5限にあるイングリッシュカフェは、上記で述べたように1つの大きなテーブルの周りのに多くの国籍の人たちがあつまり、みんなで会話し合うことが主であるが、nuisの学生二人に対してネイティブの人一人で会話をしながら映画をみたり、ボウリングをしたり、外出したりする交流を深める目的の1つである授業カンパゼーション・パートナーと呼ばれるものもある。メールを介して合計3人の時間が空いてる日を探し、実際に合っているいろいろなことを英語で話し、遊ぶといった授業である。